

高鍋町立美術館・道北昭介(遺作)展に寄せて

道北昭介さんは、昭和5年に高鍋町六日町に生まれた絵描きで、宮崎大学を卒業して県内の小中学校に勤めましたが、教職のかたわら絵画創作を行い、昭和42年に北浦小学校を退職した後は先代から継いだ「つるや旅館」を営みつつ本来の画業を続けられました。

児湯に住む人なら良く知られた馴染みのある方でしたが、平成5年に63歳の若さで他界されました。

その間、新象作家協会、AJAC(全日本絵画組合)会員として東京、福岡展等に毎年出品し、全国レベルで活躍されて高い評価を受けられました。代表作である「だきと」「土の祭り」「土の構図」などのいわゆる土のシリーズは児湯地域の民俗風習をモチーフにした抽象作品で、地味で身近な民俗的素材から農村、農民の逞しさ、優しさを象徴的に表現しています。また「不快な夏日」「黒い雨」は環境の悪化などの社会的な主題に取り組み生命の尊さを描いています。

夫人が宮崎県立美術館に寄贈された「蛾の舞」「埋没の詩」「不快な夏日」など4点が4月～7月に名作所蔵品展のひとつとして展示されました。さらに、今回道北昭介さんの里である高鍋町立美術館に於いて、その業績を称えて抽象作品を主体にその他の諸作を加えて展示し、町民の皆様に鑑賞していただくことは、大変意義深いことではないかと思えます。

福富 健男

宮崎現代俳句協会 (宮日文芸選者)
道北昭介画集編集委員

風と土と里の画家 道北 昭介 展



平成18年7月29日(土)～8月20日(日)

高鍋町美術館

道北 昭介 作品リスト

	作 品 名	画材	制作年
1	海辺のファンタジー	油彩・キャンバス	1959
2	跡(黄)	油彩・キャンバス	1961
3	跡(赤)	油彩・キャンバス	1961
4	作 品	コラージュ・ドローイング・ベニヤ	1967
5	パピプペポの墓	油彩・キャンバス	1968
6	だきとIV	油彩・キャンバス	1973
7	土の祭IV	油彩・キャンバス	1976
8	白陽の広場 I	油彩・キャンバス	1979
9	雲の世界・頌歌	油彩・キャンバス	1980
10	雲の世界・黒雲	油彩・キャンバス	1980
11	祥雲 I	油彩・キャンバス	1981
12	白い装い	油彩・キャンバス	1984
13	空隙の遺魂	油彩・キャンバス	1984
14	空隙の流れ	油彩・キャンバス	1984
15	黒い雨	油彩・キャンバス	1987
16	古い記憶	油彩・キャンバス	1987
17	浮遊	油彩・キャンバス	1987
18	錯雑	油彩・キャンバス	1987
19	争浄	油彩・キャンバス	1987
20	翻弄	油彩・キャンバス	1987
21	幼児との対話	油彩・キャンバス	1987
22	幼児の遊び	油彩・キャンバス	1987
23	ピエロの嘆き	油彩・キャンバス	1987
24	弄る時間	油彩・キャンバス	1988
25	叢間 II	油彩・キャンバス	1989
26	失楽の門 I	油彩・キャンバス	1990
27	水彩91'	水彩・水彩紙	1991
28	ぶらんこ	パステル・水彩紙	1993
29	ガーガさん	パステル・水彩紙	1993
30	すべり台	パステル・水彩紙	1993
31	おじいちゃんおいで	パステル・水彩紙	1993
32	お日様又明日	パステル・水彩紙	1993

道北 昭介

- 1930 (昭5) 高鍋町六日町に生まれる。
1947 (昭22) 宮崎県立高鍋中学校卒業。
1951 (昭26) 宮崎大学学芸学部卒業。
1966年に退職するまで
宮崎県立盲学校
延岡市立東海中学校
延岡市立岡富中学校
延岡市立土々呂小学校
北浦村立北浦小学校
を歴任。
1952 (昭27) 結婚。
1958 (昭33) 第1回新象作家協会新象展に出品。
1963 (昭38) 新象作家協会会員に推挙。
1966 (昭41) 家業の「つるや旅館」を継ぐ。
1970 (昭45) 西日本新聞連載の松丸志摩三の農村随筆「秋雲雑記」のカットを制作。
土シリーズの創作を開始。
1971 (昭46) 東京都銀座「櫟画廊」において第1回東京展開催。
1980 (昭55) 新象作家協会退会。
AJAC(日本画家組合)の誘いを受け、展覧会に出展。
土シリーズを終え、新たな作品へ移行。
1987 (昭62) 東京都美術展のAJAC展に特別陳列作家として出品。
「不快な夏日」で特別陳列作家賞を受賞。
西日本新聞連載の山下惣一の農村随筆「何か
が狂っている」のカット制作。
1989 (平1) 自然保護推進委員の委嘱を受ける。
1991 (平3) 日向ひょうすん坊共和国を地域の仲間と共に
設立。
1993 (平5) 歿